こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成27年1月25日 第37号

発行　天台宗忍草山東円寺
〒401－0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555－84－4114

『講左衛門さん、おいら待ち遠しかったでまっすん。どんな新事実が分かったでまっすん？』

『東円寺には様々な古文書があるんじゃが、東円寺に安置されている仏様・歴代住職の名前、本堂の板戸の絵の作者などが記載されたものもあるんじゃよ。その記述に、本堂の天井絵は、「中村錬吉常明」と書かれてあったんじゃ。しかし、本名ではなかったんじゃ。本当の名は、谷村仲ということが分かったんじゃ。』

クニマッスン
出生地　忍野村
山梨県水産技術センター
口癖　でまっすん‥

『別人の名前でまっすん。よく分かったでまっすん。』

『そうなんじゃ。確認ができたのは戒名が分かっていたからなんじゃよ。「大心六僮居士（だいしんりくどうこじ）」と書かれてあって、谷村仲（たにむらちゅう）・六僮（りくどう）と称すとあったんじゃ。』

『だけど、東円寺の石碑に書かれた戒名は、「覚清院大心六僮居士」だったでまっすん。』

『贈名と言ってな、葬儀後、戒名を上げる場合があるんじゃよ。六僮さんの場合は、子孫が東円寺に多額の寄付をしていることから、その功績を称えて贈った院号だったと想像できるんじゃよ。嘉永元年庚申11月に亡くなったと記載されていたんじゃが、石碑と一致しておったぞ。谷村家は、くぎを一本も使わない建築方法で建てられた家があったそうじゃ。数年前、教育員会が調査を始めたら、面倒なことになったと思ったようで、気が付いた時には、文化財級の家は、跡形もなく壊されていたそうなんじゃ。代々お医者様の家系らしいんじゃが、貴重な建物であったことは知らなかったんじゃな。壊す以前は、様々なお宝や貴重な資料が多くあったのではないかと思うんじゃが、解体業者には目利きがおってな、その人たちがしっかり持って行ってしまったんじゃないかと、神應寺のご住職が話しておった。残念な話じゃ。この話は教訓なんじゃよ。親は、一緒に暮らしていると、子供が様々なことを分かっていてくれると思い込むんじゃ。しかしじゃ、しっかり伝承しなければ、生活と密着したものでなければ風化してしまうんじゃよ。』

『寺院にある過去帳は、すごいでまっすん。確かに、その人が生きていた証が残っているでまっすん。その逆に、守らなければならないものを、知らないというだけの理由で、簡単に切り捨ててしまうこともあるでまっすん。忘れ去ることは、簡単なことでまっすん。でも、それではダメでまっすん。今の自分があるのは、過去から繋いでもらっていることがあるからでまっすん。それを、次の時代に繋ぐ大切な役割がある事を忘れてはいけないでまっすん。』

『そうんなんじゃ。それが、大切なんじゃ。物質的に豊かな時代、言い方を変えると物を捨てている時代じゃ。多くの大切なものを捨てているかもしれん。見つめなおしてほしいのう・・さて、次回は様々なところに大我講の石碑が残されているんじゃが、その石碑を紹介しようと思っておるんじゃ。』

『講左衛門さん、楽しみにしているでまっすん。』

富士大我講左衛門（ふじのだいがこうざえもん）　年齢不詳
職業　大我講の先達（せんだつ）
（先達とは富士山案内責任者）

『講左衛門通信』は、第２・第４日曜日に発行予定